

都市再生整備計画

しおのえ
塩江地区(第1回変更)

かがわ 香川県 たかまつし 高松市

令和2年8月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォークアブル推進事業	☐

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	香川県	市町村名	高松市	地区名	塩江地区	面積	12	ha
計画期間	令和2年度～令和6年度	交付期間	令和2年度～令和6年度					

目標

大目標:高松市の観光振興のために、塩江温泉郷を「オンリーワンの価値を持つ温泉郷」として生まれ変わらせること

・観光客(宿泊客)の増による地域経済の活性化【観光振興(対象:インバウンドを含む観光客)】

・小さな拠点整備による持続可能なまちづくり【地域振興・生活サービスの提供・地域コミュニティの再生・雇用創出(対象:地域住民)】

・移動手段確保による交流人口の拡大、交流機会創出【交通結節機能の強化・移動のシームレス化(対象:地域住民・観光客)】

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

塩江地区は、香川県の中央部、高松市の最南端に位置し、市中心部より南へ約25kmの自然豊かな山間地域で、高松空港からの所要時間も、車で約10～20分と短く、アクセス環境に優れた地域である。

また、塩江地区にある塩江温泉郷は、約1、300年前の奈良時代初期に名僧行基が発見したと伝えられ、平成14年に国民保養温泉地に指定された温泉地である。豊かな自然や歴史的・文化的資源など、多くの魅力ある地域資源を有しているほか、民間の旅館や温泉施設、観光関連施設もあり、人々の居住・就業の場、交流の場、休息の場、賑わいの場として、繁栄してきた歴史のある観光地である。

しかし、近年、来訪者・旅行者ニーズの多様化や施設の老朽化等を背景として、地域全体の活気が失われており、温浴・宿泊施設の約4割が閉館又は休館となっている状況にある。このまま対策を講じなければ、温泉郷(観光地)としての価値を失うだけでなく、地域住民が安心して暮らしていくための生活環境を維持していくことも困難となる可能性がある。

一方、塩江地区に近接する高松空港では、国際便(台北便等)のデイリー化をはじめ、空港へのアクセス強化や空港ビル施設の拡張など、空港を起点とした交流人口の拡大や地域の活性化を図るための取組みが、着実に進められ、空港を利用する外国人も、10年前に比べ約13倍になるなど、塩江地区を取り巻く環境が大きく変化している。

このため、道の駅を中心に、観光振興機能や地域住民の生活サービス機能等を取り入れた、拠点づくりを行うとともに、官民が連携しながら、将来にわたって持続可能となるエリアマネジメントの仕組みを構築し、塩江温泉郷の魅力発信などを行うことで、誘客促進を図るものである。

課題

・塩江道の駅エリアでは、駐車場や物販スペースが狭く、慢性的な混雑と機会損失が生じており、エリアの拡大が必要である。また、当地区では、人口減少・超高齢化が急速に進んでおり、地域住民の生活機能を確保する必要がある。

・中心市街地や空港からのアクセス手段や、地区内での移動手段を確保する必要があり、塩江道の駅エリアをハブとした持続可能な交通体系を構築する必要がある。

・インバウンドを含む観光客の受入環境の整備が求められている。

・現在、インバウンドなどの誘客活動は、個々の施設が単独で行っているが、競争力の高い観光地にしていくためには、観光エリア全体をマネジメントする仕組みを構築し、塩江温泉郷の魅力発信などを一体的・戦略的に行う必要がある。

将来ビジョン(中長期)

高松市は、多核連携・集約型環境配慮都市(多核連携型コンパクト・エコシティ)を目指しており、各拠点を「拠点」「軸」「ゾーン」という市民の行動形態を踏まえた要素で都市構造を捉え直し、再評価することにより、「市街地構造にメリハリを付加する」、「都市機能の集積と機能更新を促進する」、「公共交通等により、拠点間の交流を高め、各都市機能の高度化を図る」、「用途に基づく一体的整備を促進する」、「都市活力の維持・増大を図る」ことを目指している。塩江地区は、高松市都市計画マスタープランにおいて、機能別拠点のうち歴史・文化・自然拠点に位置づけられている。

また、高松市立地適正化計画において、塩江地区を含む立地適正化区域外においては、観光等と連携しながら、集落の維持に向けた小さな拠点づくり等を進め、立地適正化計画区域内外での連携・関係性を深めることで、市全体として持続可能なまちづくりを進めていくことにしている。特に、他の集約拠点や高松空港、主要鉄道駅等とを有機的に結びつけることで、観光交流や地域住民の生活の拠点にする。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
塩江温泉郷宿泊客数	人	塩江温泉郷の宿泊施設(6施設)における宿泊者数	塩江温泉郷の再生、地域経済の底上げ	65,944人	平成30年度	80,000人	令和7年度
道の駅しおのえ利用者数	人	道の駅しおのえのレジ通過人数	道の駅を核とした持続可能な観光まちづくり	131,917人	平成30年度	263,800人	令和7年度

計画区域の整備方針	
【道の駅を核とした「小さな拠点」整備】 新たな塩江地区の顔となる地域・観光交流拠点(ゲートウェイ)として、駐車場の拡大を始め、医療、物販・飲食、温浴、観光情報発信等の機能を導入する。また、道の駅エリアにおける公共交通の結節機能を強化することで、地域住民、インバウンド客、国内観光客等の移動のシームレス化を図り、人口減少、超高齢化が進む地区においても、安心して暮らすことのできる仕組みを構築する。	方針に合致する主要な事業 ■道の駅エリア整備事業 道路(橋梁、道の駅駐車場、自転車駐車場等)整備、高次都市施設(地域交流センター・観光交流センター)、地域生活基盤施設(緑地、情報板等)、温浴施設整備(提案事業)、既存建物解体、診療所整備(関連事業)
【塩江地区魅力発信等事業】 塩江地区は、新たに整備する道の駅エリア拠点と既存の歴史・文化・観光施設及び民間の観光関連施設が一体となることで、相乗効果を発揮するものである。国際競争力の高い、観光地区を形成するためには、民間事業者や周辺の観光地区との連携強化を図り、地区全体をマネジメントし、塩江温泉郷全体の魅力発信を行う必要がある。	■塩江地区魅力発信等事業 情報発信、観光連携協定、官民連携事業、その他ソフト事業
その他	
【塩江温泉郷観光活性化基本構想策定】 塩江温泉郷は、約1,300年前に名僧行基により発見され、空海(弘法大師)が修行をして湯治を万人に勧めたという伝説もある名湯である。 高松の奥座敷とも言われる塩江温泉郷を「オンリーワンの価値を持つ温泉郷」に磨き上げるための指針として、平成29年3月に「塩江温泉郷観光活性化基本構想」を策定し、官民が連携しながら、活性化に向け取り組んでいる。	
【国民保養温泉地】 塩江温泉郷は、県下で唯一、国から国民保養温泉地※の指定を受けており、良質な温泉を始め、豊かな自然や歴史的・文化的資源など、多くの魅力ある地域資源を有している。 ※温泉法(昭和23年法律第125号)に基づき温泉の公共的利用増進のため、温泉利用の効果が十分期待され、かつ健全な保養地として活用される温泉地を環境大臣が指定するもの。	
【チーム新・湯治】 温泉郷の活性化には、多業種による連携が必要不可欠であり、高松市は、温泉地を中心とした多様なネットワークづくりである「チーム 新・湯治」のメンバーとなっている。 チーム新・湯治は、環境省自然環境局自然環境整備課温泉地保護利用推進室が設置したものであり、本市としても、今後、チーム新・湯治の輪を広げ、温泉地で過ごす人々の笑顔を創っていくことを目指している。	
【まちづくりの住民参加】 ・塩江温泉観光協会が中心となって、塩江四大まつり(さくらまつり、ホテルまつり、温泉まつり、紅葉まつり)を開催し、塩江温泉郷のPRや交流人口の拡大に取り組んでいる。 ・昭和初期に、仏生山と塩江とを結ぶ軌道敷を走行していたガソリンカーと言われる乗り物があり、住民の日常生活における移動手段として、また、観光客等の塩江温泉へのアクセスとして利用され、塩江地域の発展に寄与してきた。マッチ箱の愛称で多くの人から愛され、記憶に残るような特徴ある車体であったとされるガソリンカーは、戦時中に廃業になったが、現在、地元関係者や学生等によって、当時の車両を模型等で復元する取組みが行われている。大きな存在感を有するガソリンカー復元の取組みは、新たな地域資源の創出につながる。	

様式(1)-④-2

(金額の単位は百万円)

...A

...B

[illegible]

塩江地区(香川県高松市)

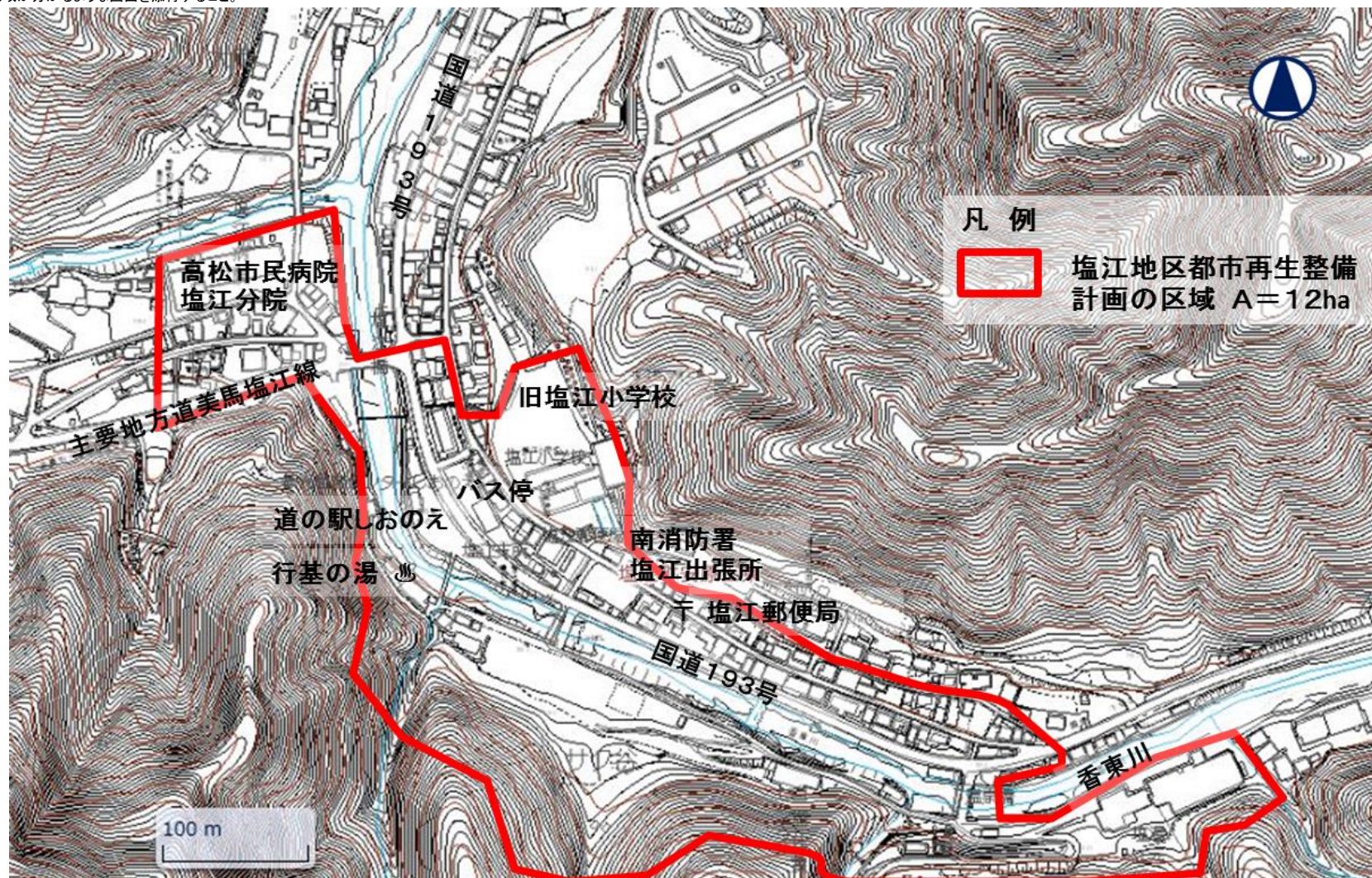
面積

12 ha

区域

香川県高松市塩江町安原上東の一部

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



塩江地区(香川県高松市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目標	・観光客(宿泊客)の増による地域経済の活性化 ・小さな拠点整備による持続可能なまちづくり ・移動手段確保による交流人口の拡大・交流機会創出	代表的な指標	塩江温泉郷宿泊客数 (人)	65,944人 (H30年度) → 80,000人 (R7年度)
			道の駅しおのえ利用者数 (人)	131,917人 (H30年度) → 263,800人 (R7年度)

用途地域: 都市計画区域外

